

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070702289
法人名	九州運輸建設株式会社
事業所名	グループホーム ふくじゅそう
所在地 (電話番号)	北九州市八幡西区本城4丁目7番46号 (電話) 093 - 603 - 8770

評価機関名	(株)アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成19年9月26日	評価確定日	10月30日

【情報提供票より】(平成19年9月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	14 人, 非常勤 3人, 常勤換算 5.79 人

(2) 建物概要

建物構造	木造一部鉄骨造り 1階建ての1階部分
------	-----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)11,000円	
敷金	有(150,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(252,000円)	有りの場合 償却の有無	有(3年償却)	
食材料費	朝食	250 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 1,500円			

(4) 利用者の概要(9月18日現在)

利用者人数	16 名	男性	4 名	女性	12 名
要介護1	6 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	68 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三菱化学㈱黒崎事業所付属病院 / 村井クリニック / 折尾病院 / 江口皮フ科クリニック
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地の小高い丘にひときわ目立ち、落ち着いた風合いの瀟洒なたたずまいの建物が「グループホームふくじゅそう」である。建物の周りには、さえぎるものはなく、眺望を楽しむことができる。内部は対称になった2ユニット形式になっている。ユニットの間は壁で仕切られているので、9名の限られた人達だけの生活環境である。自然の採光が効果的な高い天井と重厚な床で、入居者や家族など訪問した人が、なつかしさや安らぎを感じることができる。68歳から100歳と幅広い年齢層の入居者がゆったりと過ごされている。職員の多くは、創立以来の職員でベテランが多く、各自が役割を熟知し支援されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回、指摘のあった介護計画のアセスメントは生育歴を含め、よく情報を収集されていた。家族との連携が良い。職員の協力体制が整ってきた。毎日の散歩を慣行することや中庭の動線を考慮した改造で、ホームに閉じこもりを防いでいた。第三者が訪れた際に言葉かけに注意してほしい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	看護師により医療面の対応が組織だって出来てきた。服薬管理については、チェックシートを再起動させた。東京センター方式をミーティングに取り入れ、月に2回研修を重ねてある。継続して欲しい。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1度開催している。会議内容も議題も豊富で活発な意見交換が行われている。また、職員の研修報告なども行っている。運営推進会議では、地域の方と火災など緊急時の協力を得るなど、緊急時の対応について検討することも重要である。今後は、運営推進会議を地域との連携を高める場・認知症の理解を高める場としてテーマの設定など工夫を期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の意見・苦情・不安への対応は、記録に残し、対応した事を家族に伝え、職員にはミーティングで報告し共有していた。居室に鍵を付けて欲しい意見の件は、外からでも硬貨で開けられる鍵を取り付けた。日頃の言葉かけも、努力しておられるが、更に入居者の心情なども考慮され、職員間で注意するなど、いっそうの配慮が望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	毎日の定刻の散歩は慣行し、町内の風景になっていると思われる。認知病の方でも顔なじみになり、お互い挨拶を交わしている。顔なじみの人を通じたり、また、町内会に呼びかけてグループホームの見学会や説明会または認知病について勉強会のお誘いなど、地域に向けた取り組みの充実が求められる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、グループホームの役割や職員が心がけなければならない事項が全て理念の内容として掲げられていた。しかしながら、平成18年の法改正により、地域密着型サービスとしての理念の内容が求められ、今後理念の内容を検討していただきたい。		現在、地域密着型サービスとしての担う役割など、理念の内容に盛り込まれていることが求められ、地域住民との交流など、地域密着型サービスの内容を理念として検討することが求められる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念及び基本方針がホーム内の一番目につきやすい場所に掲示してある。職員は毎日それを読み上げている。毎日の事で、そらで言えますねと聞くと、何も見ないで唱和すると理念の意味することが判らないで終わってしまうとのことであった。職員トイレにも入居者に対する職員心得が貼ってあった。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に参加している。また、地域の行事には当事業所の参加は当然のように受け止められている。グループホームの行事にも地域住民・ボランティアの参加がある。毎日の散歩で近郊の住民とのふれあいができている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価で指摘されたことは、改善に結びつけ、成果を挙げている。例として、服薬管理についてはチェックシートを採用している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している。会議内容も議題が豊富で火災訓練を共に話し合ったり、職員の研修報告などがあった。また、入居者の家族が自分の介護の体験談を述べる機会ともなっている。		入居者・家族の参加が多く、意見交換など活発な会議である。運営推進会議を地域の方々との連携及び認知症の理解を高める機会として更にテーマの設定など工夫されることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	何か相談などがあるごとに市の担当者に連絡している。地域包括支援センターに空室状況なども相談し指導を受けている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関して、職員が研修に参加し、参加後は回覧して、周知徹底を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1度お便りを出してある。身近なニュースや誕生会などの行事など、生活状況をお知らせしている。家族の訪問は多く、訪問を利用し、その利用者の暮らしの状況や健康状態を詳しく報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の出席が多い。相談の件数も多く、特に診察や病院との連携に関することや自室の施設の相談があった。その都度きちんと対応され、実行可能な件は処理されていた。記録に残され、運営推進会議にも課題として取り上げられ共有化が図られていた。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が離職する際には利用者にも前もって知らせておき、色紙に贈る言葉を書いてもらったりしている。離職の際には入居者が最小限のダメージですむ様に支援している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の募集・採用には性別や年齢は不問としている。管理者・計画担当者・調理担当者・その他職員が役割を粛々と遂行されていた。職員の役割と協調すべき点がしっかり押さえているので、職員が伸びやかに生き生きと業務を行っていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	人権教育・啓蒙活動を年に1回実施している。職員トイレにも身近な言葉で言動の戒めが貼ってある。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	職員出入りに研修パンフを貼り、積極的に参加を促している。職員も向上心が高く、国家試験に臨んでいる。北九州市社会福祉協議会主催の研修にも参加している。計画担当者が中心となり、東京センター方式を取り入れ、ミーティングなどの際に勉強をしている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	開設時からグループホーム協議会に入会して、研修会の参加や意見交換などの交流を行っている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	個人ファイルの記録に、その人の成育歴や生活環境・家族状況が詳しく整理されている。職員がその人なりを理解し、今までのライフスタイル・時間の過ごし方に配慮しながら、新しい環境に徐々に馴染んでもらうように心掛けている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	事業所見学时、入居者のお孫さんが面会に来られ、入居者と自然体で過ごしてあった。また、職員以上に職員らしく他の入居者の世話をしている入居者がおられた。会話を多く持ち、共有の時間が持っている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	介護計画には、個々の希望・意向の把握がなされている。個々の入居者の行動が推察できる為、余裕をもって対応されていた。夕方近くなり、玄関で家族の迎えを待っている入居者に職員がゆっくり話しかけていた。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	ケアプラン立案の祭に本人との会話・動きの観察・家族から意向を聞き、プランに反映できるようにしている。初期計画は家族及びそれまで利用されていた介護事業・医療関係の情報やデータが必要である。よく生育歴や医師の意見書・介護保険調査結果などが収集されていた。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	定期的な見直しと個々人の身体的・精神的な変化に基づき介護計画の変更を行っている。東京センター方式の採用により、職員が情報を収集することに努めている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	併設のデイサービスの催しに参加することで、楽しみの幅を広げている。また、敷地が広い為、入居者の意向にそって畑づくりを支援している。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	1ヶ月一回かかりつけ医の往診がある。また、病院診察も入居者・家族の希望で受診している。日常の観察を行い、変化があれば電話にて相談し、受診したり、指示を受けている。		入居者の各自の投薬内容が書かれ、効用が記されている。更に薬の副作用も明記し、入居者の状態を観察して欲しい。
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	入居時に本人の意向・家族の意向を確認している。家族とは繰り返し話し合いをしている。		看護婦のケアマネジャーが常勤で勤務され、入居時に意思の確認などを、きちんと行っている。医療連携体制を強化し、加算の申請などを検討されてはどうかだろうか。
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	個人ファイルの記録に、その人の成育歴や生活環境・家族状況が詳しく整理されているので、その人その人にあつた言葉かけや対応ができています。しかし、時として言葉かけの配慮が足りない場合があり、職員間で注意するなど、言葉かけを意識した取り組みに期待したい。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	グループホームの1日の流れに、ある程度そつているが本人の体調・気分などにそつて支援している。調査中にも席に割り込んで座られても、職員にどんどん話しかけられても自然に対応されている。誕生日には入居者の希望で職員がついて夕食されたりしている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそつて支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	入居者の個々の状態に合わせて、ご飯の盛り付けをされる入居者がおられた。男性入居者もおかずのサツマイモの茎のすじとりをされていた。できる人は食後の片付けをされていた。職員も同席して同じ献立を食べるので、会話がはずんでいた。なつかしいBGMがかかっており、和やかな昼食風景があつた。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	週に3日、午前・午後と入浴タイムがあり、ゆつくりと入浴を楽しむことができるように支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	食事の準備・片付け・掃除・買い物・洗濯干し・たたむなどの役割を自分の仕事として担っている。ゆったりと流れる時間の中で自分の特技を活かし過ごされていた。トランプも男女4名で真剣にゲームをされていた。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	天候によるが近隣の緑地公園に毎日定刻に散歩に出かけている。希望の方は誕生日には職員同伴で外食を楽しまれる。買い物にも一緒に出かけるように支援している。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
29	68	鍵をかけないケアの実践	玄関には鍵を掛けないケアに取り組んでいる。しかし入浴や引継ぎの時間帯など、目が行き届かない時は施錠をしている。本人及び家族が鍵をかけることを希望された居室は、外部からも硬貨を使って簡単に開けられる様に工夫している。		玄関がホールから死角の位置にあるので、鏡を利用していつも視野に入る工夫をされたら、より安全性が高まると思われる。
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	半年に1回利用者と共に避難訓練を実地して、運営推進会議に報告している。避難訓練は地域との協力が求められ、今後、運営推進会議などで意見交換を行うなど、地域との連携にもと避難訓練を行うことが求められる。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	調理師が栄養の管理を行っている。食事量・水分量のチェックシートがあり、記録を行っている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	高い天井からは自然の採光が溢れ、重厚な床は騒音を吸い込むようで安らぎと静けさが感じられた。行事の写真もセピア色でできあがり、なつかしい雰囲気であった。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室の選択は性別や入居者の状況に応じて決めている。空調も状態・好みに合わせている。クロ・ゼット・洗面台・トイレも各居室に備えられていた。仏壇も持ち込んでおられた。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			